

# 野 菜

実 況…(28年6月20日現在)

## 1 施設野菜

### 果菜類

#### (1) トマト

南越、若狭地区の1月上旬定植では、8～9段果房を収穫中である。福井地区では、2月下旬定植で3～4段果房を収穫しており、昨年より3日ほど早いペースで進んでいる。南越地区では、5月30日から選果場が稼働している。

灰色かび病、うどんこ病が少発、葉かび病、コナジラミ類が微発である。

坂井北部丘陵地の抑制栽培は6月5日から播種開始、若狭地区の越冬栽培は6月29日に収穫終了し7月7日に定植予定となっている。

#### (2) ミディトマト

福井、坂井、南越地区の半促成栽培は、6月上旬から順次出荷が始まっており、1～3段果房を収穫中である。奥越地区の夏秋栽培は、6～7段果房が開花し1段果房が収穫間際となっている。

灰色かび病が一部微発、葉かび病、アザミウマ類が微発である。

若狭地区の促成長期どり栽培は、6月末で収穫終了し、次作は7月中下旬に定植予定である。

抑制栽培では、坂井地区は6月10日から播種、福井地区は6月17日から定植が始まっている。

#### (3) キュウリ

3月中・下旬定植の福井、丹生地区、および4月下旬定植の二州地区では継続収穫中である。

うどんこ病が多～中発、アザミウマ類が多発である。

#### (4) ハウススイカ

坂井北部丘陵地および三里浜砂丘地は、6月3日から出荷が始まり（昨年より2日早い）、6月20日頃に出荷が終了している。

#### (5) メロン

アールスメロンは、坂井北部丘陵地で6月20日から、三里浜砂丘地では7月5日から出荷開始予定である。

坂井北部丘陵地のプリンスメロンは6月3日に出荷終了、アンデスメロンは6月17日から出荷予定である。

マルセイユメロンは、坂井北部丘陵地では5月29日から、三里浜砂丘地では6月1日（昨年より3～6日早い）から収穫が始まっている。南越地区では、6月6日（昨年より3日早い）から出荷開始で、7月中旬まで続く予定である。

つる枯れ病、ハダニ類が少発、アブラムシ類が少～微発である。

### 葉根菜類

#### (1) 軟弱野菜

福井地区のハウレンソウは、5月中旬播種を35～40日で収穫中である。

#### (2) ダイコン

三里浜砂丘地では、6月上旬で出荷はほぼ終了している。

### (3) 青ネギ

若狭地区の水耕栽培は、4月11日播種が6月7日から出荷開始となっている。

## 2 露地野菜

### 果菜類

#### (1) ピーマン

4月下旬定植の丹生地区では、草丈は55～65cm、第8～9果房開花で第4～5果房が着果している。5月下旬から出荷が始まっている。

アザミウマ類、アズキノメイガが微発である。

#### (2) キュウリ

若狭地区の5月下旬定植の加工用キュウリは、6月下旬から収穫開始予定である。丹生地区の5月末定植では、草丈115cm前後、主枝が15～19節である。

うどんこ病が中発、アザミウマ類が少～微発、ウリハムシが微発である。

#### (3) スイカ

4月中旬定植の坂井北部丘陵地は、5月末から開花し（昨年より3～5日早い）、球径20～25cmになっている。

4月上旬定植の三里浜砂丘地では、5月末～6月上旬が開花盛期となり、草勢はやや弱めで肥大は緩慢である。南越地区では、トンネル除去が6月上旬から始まっている。

炭疽病、つる枯れ病、アブラムシ類、ハダニ類が少発である。

#### (4) カボチャ

4月上旬定植の坂井北部丘陵地は、果実が18cmで軸のコルク化は40～50%まで進んでいる。

うどんこ病が少発である。

#### (5) ナス

4月中旬から5月下旬に定植した奥越地区は、早いもので主茎長90～95cm、第4～5果房開花、第2～3果房を収穫中で、生育は昨年並みである。6月10日から出荷が始まっている。

アザミウマ類、カメムシ類、タバコガ類が少発、ハダニ類、うどんこ病、灰色かび病が微発である。

#### (6) 一寸ソラマメ

坂井地区は、5月17日から6月3日にかけて出荷が行われた。若狭地区では、5月13日から6月2日にかけて出荷が行われた。

#### (7) スイートコーン

福井地区は、旧清水町で、4月下旬定植で草丈150cm、絹糸抽出は80%である。

永平寺町では、4月20日定植で草丈180～190cm、絹糸抽出は6月5日からとなっている。6月末から収穫開始予定である。

アワノメイガが中～少発、アブラムシ類、アザミウマ類が少発である。

#### (8) エダマメ

二州地区は、4月下旬定植のマルチ栽培が本葉10枚、5月上旬播種の普通栽培で本葉8枚である。

### 葉菜類

#### (1) ブロッコリー

3月下旬定植の福井地区は、5月23日から出荷が始まり、平年より10日程度早くとなっている。3月中旬定植の南越地区では、継続出荷中である。アブラムシ類が少発で

ある。

## (2) ネギ

奥越地区の越冬どりは、6月10日に出荷終了した。

3月下旬定植の福井、坂井地区は、葉鞘径が21～25mmである。4月上旬定植の坂井、奥越、若狭地区では、葉鞘径が13～20mmである。4月中旬定植の福井、坂井、奥越、若狭地区では、葉鞘径が12～14mmである。4月下旬定植の奥越、若狭地区では、葉鞘径が10～12mmである。5月上旬定植では、福井、坂井、奥越、若狭地区で、葉鞘径が8～11mmとなっている。生育は5月の少雨により一時抑制されたものの、梅雨入り後の降雨により回復し、昨年と比べて若干早めとなっている。

さび病、ネキリムシ類が中～少発、ハモグリバエ類が中～微発、アザミウマ類が中～微発である。

## (3) キャベツ

越冬初夏（5～6月）どりは、坂井地区の水田地帯はYR春空が出荷終了、SEが6月3日から出荷開始となっている。坂井北部丘陵地でも、SEの出荷が始まっているが小玉傾向である。春植え6月どりは、6月20日から順次出荷が始まっている。

アオムシ、コナガが少発である。

南越、二州地区では、6月下旬から夏植え秋冬どりの播種が始まり、7月中旬に定植予定である。

## 根菜類

### (1) タマネギ

永平寺町は、6月2日から中生の収穫が始まり、6月15日で終了した。平年より肥大はよく、単収が高くなっている。坂井地区では、収穫が6月7日から27日まで行われた。

### (2) ラッキョウ

三里浜砂丘地は、一年掘りが6月3日に出荷終了、三年子が6月4日から収穫開始で収穫中である。

### (3) カンショ

坂井北部丘陵地は、6月末で定植終了予定である。丹生地区では、6月9日で定植が終了した。

### (4) サトイモ

奥越地区は、主茎長35～45cmで本葉4～5枚展開している。5月の少雨により、生育が抑制されている圃場も一部あり、かん水が実施された。

セスジズメが中～少発、アブラムシ類、ヨトウムシ類が少発、ハダニ類が微発である。

### (5) ニンジン

3月下旬播種では、三里浜砂丘地は本葉10～11枚、根重100～150gで、6月末から収穫開始予定である。また、坂井北部丘陵地は、根重が140g程度である。

### (6) ニンニク

永平寺町は、6月6日から収穫開始となり、6月15日で終了した。収穫ピークは6月10日で平年より5日程度早い。肥大は平年並みで良好であった。

## 対 策

梅雨時期は、降雨による湿害を防ぐため、ハウス周辺部の排水対策を徹底するとともに、換気と誘引整枝、摘葉等により風通しをよくして、病害の発生予防と拡散防止に努める。なお、梅雨明け以降は、急激に晴れて暑い日が多くなり、時として猛暑日が続く場合があるので、盛夏期の高温障害対策に備えて遮光ネット等の準備や露地野菜における少雨干ばつ対策についてもかん水器具点検や準備等事前に行っておく。

今から、病害虫発生が多くなる季節となり、農薬による防除回数も増えてくるが、耕種的防除も取り入れながら農薬の適正使用に努める。

### 1 施設野菜

#### 果菜類

##### (1) 抑制果菜類の育苗

育苗は通風のよい所にハウスを設置し、ウイルス病予防のためハウス開口部には寒冷紗で被覆する。また、徒長防止のため、保水性の良い床土を用いかん水量が過剰にならないように留意する。さらに、換気を十分に行うとともに、苗どうしが過密にならないように生育に合わせて鉢間隔を広くする等健苗の育成に努める。

##### (2) トマト

換気を十分に行うことでハウス内気温の上昇を防ぎ、摘葉と合わせて風通しをよくすることで、葉かび病、灰色かび病、うどんこ病等の発生を抑制する。ただし、病害の発生を確認した場合には、早期防除に努める。なお、突然の豪雨による裂果を防止するため、ハウス周囲の排水溝の整備をしておく。

抑制トマトの施肥は、前作の肥料残効を考慮（必要に応じて土壌分析）して、適正な施肥量を決定する。過剰な窒素は、過繁茂や心止まりの原因になるので注意する。

トマト黄化葉巻病の発生防止と蔓延を防ぐため、媒介昆虫であるタバココナジラミの発生防止策を徹底する。前作終了直後に施設内を蒸し込み、ハウスに防虫ネットを設置して、健苗を定植する。農薬粒剤の施用により発生を抑制し、発病株を見つけたら早期に除去することにより被害を抑える。また、黄色粘着板等を活用してタバココナジラミの発生予察等を活用しながら的確な防除を行う。

##### (3) キュウリ

草勢が低下してくると曲がり果や尻細り果等が多くなるので、着果量を考慮しながら追肥、かん水を行う。また、病害予防のため、親づるの摘葉、子づるや孫づるの整枝等を行って日当たりや通風をよくするとともに、ハウス換気を十分して灰色かび病やべと病の発生抑制に努める。なお、摘葉は1度に多くの葉を摘除すると草勢を低下させるので、1回当たり2枚程度とする。

##### (4) ミディトマト

大雨による糖度低下や裂果を防ぐため、ハウス周囲の排水溝を整備してハウス内への浸水を防ぐ。ただし、過度な乾燥状態が続くと、草勢の低下、上部茎葉での針葉の発生を招き、落花や収量品質の低下につながるため、土壌水分（畦内での土の湿り具合）を確認しながら適宜かん水を行う。

また、収穫時の軟化果の発生を防ぐため、ハウス換気（肩換気など）や遮光を行って果実温を下げるとともに、適期収穫に努める。さらに、葉かび病、オンシツコナジラミ、ミカンキイロアザミウマ等の防除を徹底する。

抑制栽培では、高温期が定植時期となるため、定植前に十分かん水し土壌水分を確保するとともに、適切な遮光を行い活着を促進させる。活着遅れや極端な萎れは、落花や着果不良、上段花房の花数減少の原因となるので留意する。特に、プラグ苗による定植

は、十分に活着するまでは、根が地下深くに伸びるように、手かん水等でこまめなかん水を行う。

トマト黄化葉巻病対策については、(2)トマトを参照する。

#### (5) 抑制ネットメロン

定植苗は、活着の促進や高温期間の草勢確保のため、2.5葉期程度の若苗を植え付ける。なお、定植は高温による定植時の萎れや活着不良を防ぐため、温度の下がった夕方か曇天日に行う。さらに、ウイルス病予防のため、ハウスの出入口やサイドに寒冷紗を張って、アブラムシ類、アザミウマ類の侵入を防ぐ。

#### (6) イチゴ

ランナーが出始めたら込み合わないよう配置する。必要苗数が確保できた時点でランナーの摘心を行う。ポットによる苗づくりは、7月下旬から8月上旬にかけて、9cmのポリポットに市販の培土を詰めて苗受けとして配置し、必要苗数(目安850株/a)が確保できた時点でランナーを切り離す。その後、苗が徒長しないよう15cm間隔で苗鉢を広げながら育苗する。

ダニやアブラムシ、うどんこ病、炭疽病等は栽培期間に発生すると、壊滅的な被害になることが多い。病害の発生の有無に関係なく、育苗期間中に予防散布を実施する。なお、予防散布にあたっては薬剤による抵抗性が出ないよう留意する。

### 葉菜類

#### (1) ホウレンソウ

高温期に播種する場合、立枯病や萎凋病等の病害の発生が多くなる。このことから、必ず土壤消毒を行う。播種時に十分かん水し、その後4葉期頃まではできるだけかん水を控える。なお、土壤の高温や乾燥によって発芽が不安定になりやすいので、黒寒冷紗で遮光を行って地温を下げ、土壤水分を安定させる。高温によって徒長しやすくなるため薄播きをするとともに、収穫適期日数が短くなるので段播きにより調整し計画的に収穫できるようにする。

#### (2) コマツナ

ハウス出入り口やサイドに寒冷紗を張り、コナガ、アオムシ等の侵入を防ぐ。また、ホウレンソウと同様に薄播き、段播きを徹底する。キスジノミハムシの侵入防止のため、0.8mm目合いの防虫ネットを使用する。

## 2 露地野菜

### 果菜類

#### (1) スイカ

降雨が続いた後や大雨の後に、つる枯病、炭疽病等の病害が蔓延する傾向が見られるため、圃場排水をよくして根の衰弱を防ぐ。晴れ間を見て、必ず予防散布を徹底するとともに健全な葉を確保する。また、果実が10cm程度の大きさになった頃、玉直しをしてスイカシートを敷く。なお、梅雨明け以降に、草勢低下が見られる場合は、果実にわら等で日除けして直射による日焼け果を防止する。

#### (2) ナス、ピーマン

圃場排水をよくして根の衰弱を防いで草勢を維持しつつ、品質のよい果実を長期間収穫するためには、肥効が途切れないように収穫量を見ながらこまめに追肥を行う。梅雨明け後は、敷きわらを行って畦の水分保持と地温低下を図る。また、晴天が続く場合には、かん水により通路が常に湿っている程度の土壤水分を確保して、草勢の維持確保を図る。ただし、生育が進むにつれて枝葉が込み合ってくるので、誘引、整枝により草勢

を安定させ、下葉の摘葉により風通しを良くする。なお、ヨトウムシ、アブラムシ等の害虫の発生が見られた場合は、早期防除に徹する。

草勢の判断基準として、ナスでは長花柱花と中花柱花が混在している。果実のヘタ下部が2～3段に着色している。開花上下の茎の長さがほぼ同じである。このような状態であれば、ほぼ適正な草勢であると判断できる。

### (3) キュウリ

収穫量の増加に合った追肥を適宜行う。また、過度な摘葉を避けて草勢低下を防ぐ。ただし、込み合ったところは草勢を見ながら適宜摘葉を行い、風通しをよくするとともに、べと病等の予防散布に努める。なお、曲がり果、尻細り果、花落ち部が丸くなった果実の増加が見られるときは、草勢が低下してきたと判断できるので追肥が遅れないように注意する。

## 葉菜類

### (1) ネギ

ネギの難病害である軟腐病、白絹病は、夏期の高温多湿条件で発生が助長される。このため、降水量が多く土壌湿度が高くなると多発しやすくなり、特に乾燥状態が続いた後に過湿状態が続くと激増する。さらに、排水不良の圃場では多発しやすいため、圃場排水をよくするとともに、水田圃場では早めに粒剤等を散布し病害発生予防に努める。定植時期や生育状況を見て、追肥時期や土寄せ時期が遅れないように管理作業を行う。

### (2) キャベツ、ブロッコリーの育苗

ペーパーポットやセルトレイを利用し、市販の専用培土を用いて播種を行う。なお、播種から20～25日で2.0～2.5葉期の苗に仕上がるため、定植時期を考慮して播種日を決める。育苗管理については、底面が平らな育苗箱等に載せたトレイに播種し、かん水を行った後パレットに6枚並べる。それを1段にして8段重ね、格納庫等の涼しい場所に置いておく。一番上には肥料袋等をかけて、重しをして乾燥を防ぐ。播種してから2日後に、少し発芽して土が盛り上がっているのを確認したら、トレイをハウスに移動して1枚ずつ並べる。基本的には遮光せずに管理を行う。なお、高温時の苗の徒長を防ぐためには、過剰なかん水を避け、使用する培土はやや肥料分の少ないものを選び、育苗期後半に1～2回追肥して仕上げるようにする。

## いも類

### (1) サトイモ

7月上旬に追肥、土寄せを行う。土寄せ時期が遅れると根を傷め、生育を停滞させることになるので遅れないようにする。孫いもの着生期となるため、土壌水分が必要な時期となる。梅雨明け後は圃場が乾きやすくなるので、圃場の乾燥状態を見て適宜に畦間かん水を行う。ただし、日中は落水し、湛水状態にならないように管理する。